

～ ひかり探Qプロジェクト～

「つくりたい！遊ばせたい！光市こども公園！！」

山口県立光高等学校 3年

長富 世奈・神代 悠

令和7年度 第1回「ひかり探Qサロン」成果発表より

1 探Qスタート

私たちが3年間取り組んできた「ひかり探Qプロジェクト」について発表します。

私たちは探Qプロジェクトのテーマを「つくりたい！遊ばせたい！光市こども公園！！」



としました。その理由は、私たちは二人とも子供が好きで子育てに関心があり、そこで公園に焦点を当てたからです。

探究との出会いは、「ひかり探Qプロジェクト」の発表会と令和5年度第1回「ひかり探Qサロン」に参加したことでした。



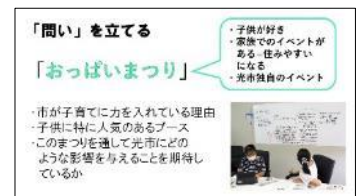
私たちは発表会やサロンを通して、この活動に参加することにし、最初に光市の「気になる探し」をしました。光まつりや「おっぱいまつり」、冠山総合公園などが出ました。



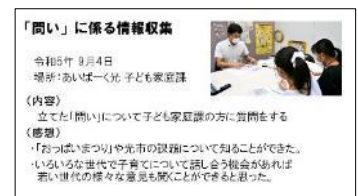
その中で最も気になったのが「おっぱいまつり」でした。先ほどお話しした通り、私たち自身が子供が好きで、光市独自のイベントを通して家族のイベントにつながると、住みやすい街へつながると思ったからです。

2 「あいぱーく光」訪問

光市のホームページや市役所のイベント担当の方からいただいた資料をもとに、このような（スライド参照：以下「SL参照」という。）問いを立てました。問いを立てた後、「あいぱーく光」を訪問して、子ども家庭課の方に、立てた問いについて質問をしました。



情報収集を終えて、「おっぱいまつり」や光市の課題について知ることができ、いろいろな世代で子育てについて話し合う機会があれば、若い世代の様々な意見を聞くことができると思いました。



3 「おっぱいまつり」ボランティア参加

情報収集だけでは分からないことも多かったため、実際に「おっぱいまつり 2023」にボランティアとして参加しました。私たちは来場された方に「おっぱいまつり」の良かったところ、改善点、意見などを聞くアンケート



ト係を担当しました。

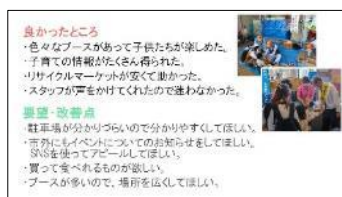
また「探Qのオリジナル質問」を加えることが可能だったので、追加の質問も考えました。事務局の質問内容は「どこから来たのか」、「何を目的に来たのか」、「おっぱいまつりの良かったところ」、意見要望、改善点などです。

「探Qのオリジナル質問」は、「光市の子育ての面で良い点」、そして「もっとこうあったらいいなと思う点」の2点として、インタビューしました。

インタビューを終えて「良かったところ」は、「色々なブースがあって、子供たちが楽しめた」、「子育ての情報がたくさん得られた」、「リサイクルマーケットが安くて助かった」、「スタッフさんが声をかけてくれたので迷わずに済んだ」という意見が出ました。「要望や改善点」は「駐車場が分かりにくいので分かりやすくしてほしい」、「市外にもイベントについての情報が欲しい」、「INSTAGRAMなどを使ってアピールをしてほしい」、「買って食べられるものが欲しい」、「ブースが多いので、場所を広げてほしい」。

4 探Qオリジナル質問

「探Qのオリジナル質問」である「光市の子育て」についての意見は、よい点として、「子育て支援制度が整っている」、今は高校生まで免除ですが、この時は



中学生までだったので、「医療費が中学生まで無料である」という意見が出ました。「もっとこうあったらいいなと思う点」としては、「周南地区などに行かないと大きな公園がないので遊べる大きな公園が欲しい」、「子供が遊べるイベントを増やしてほしい」という意見が出ました。

中でも公園についての意見が一番多く、私たちは新たな問いとして「子供たちが遊べる場所とは？」について調べることにしました。まず公園について考え、小中高生の触れ合い、子供向けイベントなど様々な考え方がありました。そして、仮の探Qテーマを「子供たちが遊べる場所に関する」として、他市の良いところや市内の公園について調べることにしました。



5 身近な公園調査

アクション①として公園の実態調査をしました。市内の身近な公園へ行き、調査をしました。調査のまとめとして、遊具は少ないがきれいに整備されているところ、遊具はなく広い空き地のみのところ、雑草だらけになっており整備されていないと思われるところ、安全性の面でやや気になるところ、自治会の人々の当番で適切に維持管理されているところなど、それぞれの公園によって実態が異なっていることが分かりました。

感想は、遊具の老朽化や管理が行き



届いてないところ、自治会などで管理されているところなど公園によって差がある。ベンチが少ないのでベンチがあると良いと思いました。また、実際に足を運んで見えてくる現状から、もっと他の公園について調べてみたいと思いました。

5 「冠山総合公園」調査

アクション②として、市内では比較的大きい光市冠山総合公園「こどもの森広場」の調査をしました。良い点としては、土地を利用して山の斜面に作られている。自然に触れ合いながら遊べる。斜面を利用した遊具が多く、他の公園にはないようなオリジナルの遊具があり、数や内容も充実している、というところがありました。一方で、立地環境、段差・足場の石がとがっていること、急斜面で滑りやすい所があることが気になりました。



このことから、年齢の上の子を遊ばせようと、下の子をベビーカー等で連れてといった親子の来園には向かないように感じました。



6 R5「ひかり探Qサロン」参加

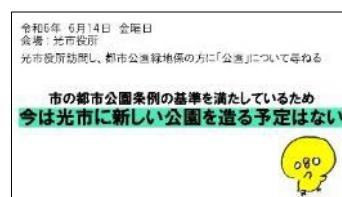
そして、私たちは令和5年度第2回「ひかり探Qサロン」に参加して、「おっぱいまつり」の気づきとアンケート結果の報告をし、第3回「ひかり探Qサロン」では公園の実態調査の報告



をしました。そこで、参加者の皆さんから「あるのに、ないと言われるギャップは何なのか」、「幅広い世代が集まるには何が必要なのか」、「保護者の方にとって公園とはどういう所なのか」など、新しい疑問が多く出て、今後の探究を進める手がかりになりました。

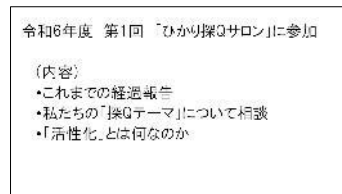
7 光市役所「公園担当課」訪問

「ひかり探Qサロン」で出た新たな疑問を元に、公園について詳しく知ろうと思い、光市役所を訪問して、都市政策課公園緑地係の方に公園について尋ねました。すると今は光市に新しい公園を作る予定はないと言われました。理由は市の都市公園条例の基準を満たしているためでした。



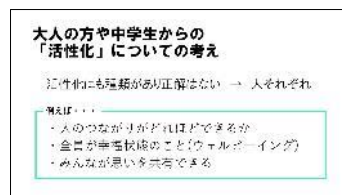
8 R6「ひかり探Qサロン」参加

その後、令和6年度第1回「ひかり探Qサロン」に参加し、これまでの経過報告をしました。また、この時、まだテーマが決まっていなくて、探究のこれからについて相談し、私たちの探究の原点である「活性化」についてもう一度考え直しました。



ここで参加者の皆さんからの「活性化」に対する考えを紹介します。まず、「活性化には種類があり、正解はない」ということです。

「活性化」はいろいろな想いや個性が集まって出来上がるものであり、人それぞれだということが分かりました。例えば、「人のつながりが



どれほどできるか」、「全員が幸福の状態のこと」、「みんなが想いを共有できること」などです。人それぞれ意見が違うからこそ、活性化できるのだと思いました。

私たちは、「ひかり探Qサロン」に参加してくださった皆さんからアドバイスをいただき、「子育て世代が求めていることを探究」すれば、もっと深めていけると思いました。

そこで、私たちは公園の遊具のブラッシュアップを検討することにしました。そのきっかけは、保護者の方々から新しい遊具が欲しいという意見が多く、錆びている遊具が多いことからです。

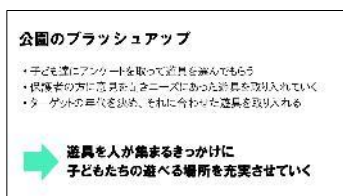


9 「周南フレンドパーク」 調査

子どもが多く集まる「周南フレンドパーク」へ実際に行きました。このように (SL 参照) 一つの遊具が大きく、色とりどりですぐに遊びたくなるような構造でした。「周南フレンドパーク」は、市民の方にアンケートをとって、市民と市が共同して作られています。



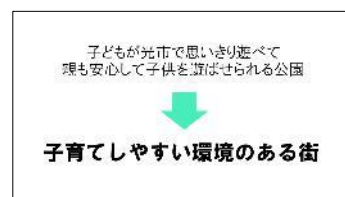
このことから、「周南フレンドパーク」のように子どもたちにアンケートをとって遊具を選んでもらえば良いと考えました。また、保護者の方に意見を聞き、ニーズに合った遊具を取り入れたり、ターゲットとする年代を



決め、年代に合わせた遊具を取り入れたりしようと考えました。そして、ユニバーサルデザインやインクルーシブ遊具などに着目して、誰もが使えるような遊具の提案を行おうと思いました。

そうすることによって、遊具を人が集まるきっかけにし、子どもたちの遊べる場所を充実させていくことができました。

これらのことから、子どもが光市で思いっきり遊べて、親も安心して子どもを遊ばせることができる公園があることによって、光市を子育てのしやすい環境のある街へと導くことができます。と

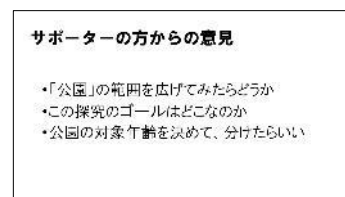


10 「やまぐち探究サミット」 参加

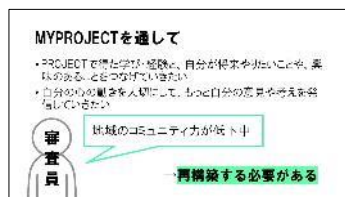
私たちは、2月2日に開催された、やまぐち若者マイプロジェクト「やまぐち探究サミット」Day2(山口県ひとづくり財団主催)に参加して、これまでの探究活動について発表し、県内の高校生と意見交換をしました。

発表後、サポーターの方々から「公園の範囲を広げてみたらどうか」、「この探究のゴールはどんなのか」、「対象年齢を決めて分けたらいい」という意見をいただきました。

この発表会を通して、まず参加者である高校生たちの企画力とプレゼン力のレベルの高さに驚きました。そして、私たちが今までやってきたことを雑談等の中で話すことで、周りの人も興味を持ち、地域への関心が高ま



ることに気づきました。また、企画をする上で地域の力が大切となり、審査員の方が地域のコミュニティ力が低下中だとおっしゃっていたので、地域のコミュニティ力を再構築する必要性があると思いました。



今回のマイプロ発表会参加を通して得た学びと、自分が将来やりたいことや興味のあることをつなげ、自分の心の動きを大切にしていって、もっと自分の意見や考えを発信していきたいと思うようになりました。

11「恋ヶ浜クナイパーク」調査

そして、私たちは、今年リニューアルされた下松市にある「恋ヶ浜クナイパーク」へ実際に行きました。

インクルーシブを重視した公園で、遊具には下松市の魅力がたくさん取り入れられており、11 遊具 62 アイテムと子どもたちが楽しめるような構造になっていました。



年齢ごとにエリアが分けられており、この（SL 参照）遊具は3～6 歳向けのエリアにある遊具で、見るだけではなく、五感で楽しむことができます。



これは（SL 参照）1～3 歳向けの「くだまるランド」です。周りが柵で囲まれて、年齢の低い子ども



が大きな子どもとぶつかったりせず、遊びやすいようになっていたりして、安全に配慮されています。また、緊急時には出入り口以外にも出られるように、乗り越えが可能な低い柵が設置されています。

デザインはこんな（SL 参照）風になっており、あらゆる場所に下松市のキャラクターである「くだまる」が描かれています。



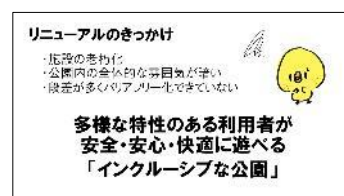
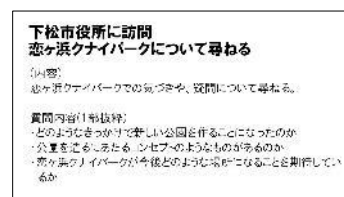
12 下松市役所「公園担当課」訪問

「恋ヶ浜クナイパーク」での気づきや感想を伝え、疑問について尋ねるため、下松市役所を訪問しました。質問内容は、「どのようなきっかけで新しい公園を作ることになったのか」、

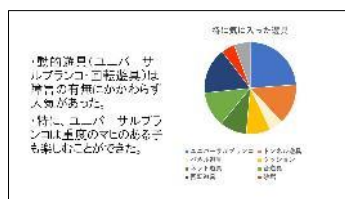
「公園を作るにあたりコンセプトのようなものがあるのか」、「恋ヶ浜クナイパークが今後どのような場所になることを期待するか」など16点です。

リニューアルのきっかけは、「施設の老朽化」、「公園内の全体的な雰囲気が暗い」、「段差が多くバリアフリー化ができていない」などでした。

下松市では、多様な特性のある利用者が安心・安全・快適に遊べるインクルーシブ公園を目指すため、インクルーシブ遊具の体験会を行ったそうです。そこで、遊具を利用した親子や幼稚園、保育園、特別支援学校の教諭、福祉施設の職員などを対象にアンケートを行い、その結果の一部をお示します。これは



(SL 参照) 特に気に入った遊具の割合を表しています。青色の部分であるユニバーサルブランコ、濃い青色の部分である回転遊具は、障害の有無に関わらず人気がありました。



特にユニバーサルブランコは重度の麻痺がある子どもも楽しむことができると書かれていました。また、下松市の方々が体験会のアンケート結果の資料を作ってください、自由記述の欄に書かれていた多くの意見や要望を、「恋ヶ浜クナイパーク」に取り入れていることに気づきました。

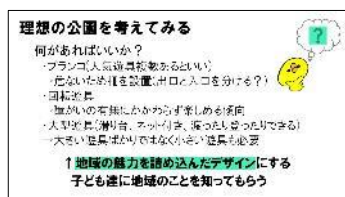
例えば、小学生高学年向けの難易度の高い遊具が欲しいという要望には、「ものづくりのまち下松」を表現した特急アーチの中をボルダリングの要領で登りながら進めるような構造になっています。落下防止用のネットがあるため、安全に遊ぶことができます。



トイレが明るく、子どもが利用しやすいようにしてほしいという要望には、トイレに窓を設置して光が入りやすいようにし、壁にイラストをつけ、子ども用便座や手洗い場が設置されています。

13 私たちが考える「理想の公園」

私たちはその後、理想の公園について考えました。まず、公園には何があればよいかを考えました。そこで、「ブランコ」と「回転遊具」、「大型遊具」があるとよいと思いました。ブランコは人気遊具なので複数設置し、安全

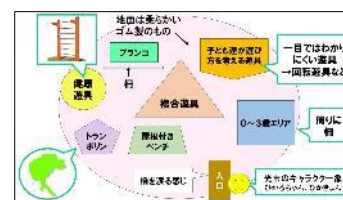


面を配慮して、出口と入り口を分けるための柵を設置するとよいのではと考えました。

回転遊具は障害の有無に関わらず楽しめる傾向があり、大型遊具は小さい遊具を複合させて作る必要があると思いました。

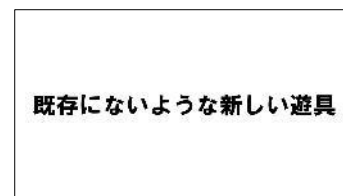
また、地域の魅力を詰め込んだデザインにすることで、子どもたちに地域のことを知ってもらうきっかけになると考えました。

私たちの理想の公園イメージはこんな (SL 参照) 感じです。真ん中に大型遊具、入り口は橋を渡る感じで、その先に光市のキャラクター「ひ



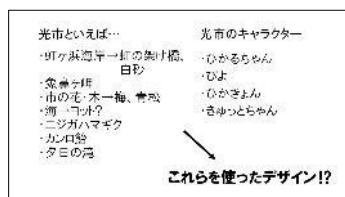
かるちゃん」や「ひかきょん」が出迎えてくれ、0〜3歳エリアは周りに柵を設置。その隣には子どもたちが遊び方法を考える遊具を設置します。これは一目ではわかりにくい遊具や回転遊具などを設置します。ブランコは先ほども話したとおり柵を設置し、健康遊具も設置します。理由は、大人も子どもも障害のある方も誰でも利用することができ、休憩をすることもできると考えたからです。トランポリンはさりげなく光市の形にしてみるのが良いのではと考えました。

そして、「恋ヶ浜クナイパーク」体験会のアンケート結果を一通り見た上で、「既存にないような新しい遊具」を望む声が多く寄せられていたため、私たちはそれについても考えてみました。

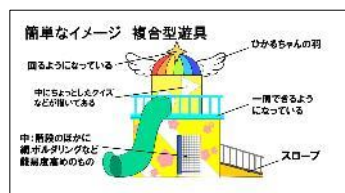


まず、もう一度「光といえば」という風に光市について考えました。例えば、虹ヶ浜海岸や像鼻ヶ岬、梅、虹ヶ浜菊などです。光市のキャラクターについても調べ、このような

(SL 参照) 光市を
感じることができ
るようなものを使
ったデザインにす
るのが良いと思い
ました。

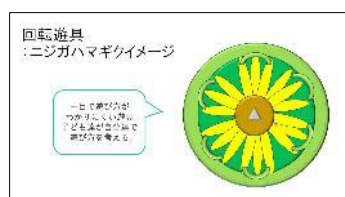


これは (SL 参照) 簡単なイメージです。一
番上にあるものは
回るようになって
おり、その下に「ひ
かるちゃん」の羽
根を設置します。

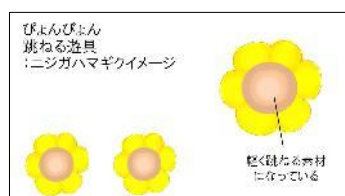


ちょっとしたクイズなどが書かれてあり、中
に網やボールダリングなどを設置して子ども
たちが楽しめるような構造になっています。
スロープは階段を登れない子ども上へ上がる
ことができるようになっていきます。

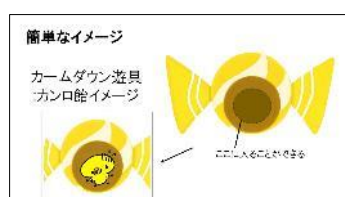
他の遊具のイメージも簡単に説明してい
きます。まずは回転遊具です。これは (SL 参
照) 虹ヶ浜ギクを
モチーフにしてい
ます。一目では遊
び方が分かりにく
く、子どもたちが
自分たちで遊び方を考えられるような遊具
になっています。



こっちの (SL 参照) 遊具は、踏むとピョン
ピョン跳ねる遊具
になっています。
また、踏んで音が
鳴ると小さな子ど
ももより楽しめ
ると思ひました。

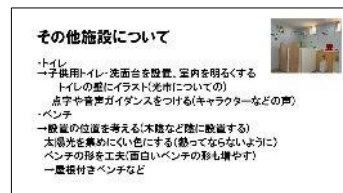


次に、これは (SL 参照) カンロ飴をイメ
ージしたカームダ
ウン遊具です。カ
ームダウン遊具と
は、パニック状態



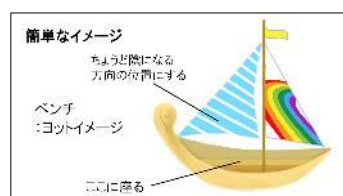
になった時に中に入
って落ち着くこと
のできる遊具で
す。カンロ飴の茶
色の部分に入る
ことができます。

その他の施設につ
いて、トイレは室
内を明るくして、
多目的
トイレ、子ども用
トイレと洗面台を
設置、壁には光市
を感じるようなイ
ラストをつけま
す。

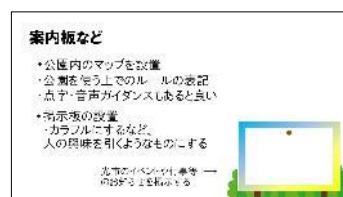


また、点字や音声ガイダンスを付け、より
多くの人に楽しんでもらえるようにします。
ベンチは木陰を利用し、色を工夫することで
暑くならないようにします。

これは (SL 参照) ヨットをイメージしたベ
ンチです。太陽光
の方向に帆がある
ように位置し、中
に座る人の陰にな
るようになってい
ます。

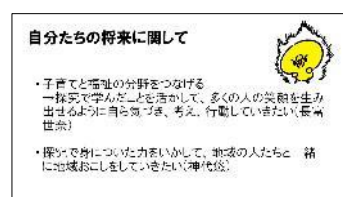


そして案内板につ
いてです。公園内
のマップやルール
を表記し、点字や
音声ガイダンス
があるとより分
かりやすいと思
ひました。また、
案内板の隣にカラ
フルで人の興味
を引くような掲
示板を設置し、光
市のイベントや
企画を掲示しま
す。ここまでが
私たちの理想の
公園についてで
す。



14 本プロジェクトをとおして

最後に、私は3年間の「ひかり探Qプロジ
ェクト」を通して、
地域や子育てにつ
いて、より一層関
心が高まりまし



た。子育てと福祉の分野をつなげ、自分で気づき、考え、自分の思いを発信できるような人になりたいです。そして、私の行動が多くの人の笑顔を生み出せるようにします。

(長富世奈)

この探Qプロジェクトで身につけた力を活かして、地域の人たちと一緒に地域おこしをしていきたいです。

(神代 悠)

以上で、発表を終わります。



参考：私たちが考える「理想の公園」イメージ素案図

